

令和7年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	15	学校名	茨城県立水戸第一高等学校							課程	全日制		学校長名	御厩 祐司				
副校長名	西連地 由浩				教頭名	照沼 裕一				石川 明			事務室長名	佐藤 総英				
教職員数	指導教諭	1	教諭	54	養護教諭	1	常勤講師	3	非常勤講師	6	実習助手	1	事務職員	5	技術職員等	4	計	80
生徒数	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計 クラス数						
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女							
	普通科	129	114	139	104	151	91			419	309	18						

2 目指す学校像

○真理を愛する学問第一の校風の下、質が高く、活気ある授業や課題研究、社会と連携した教育プログラムを展開し、生徒が切問近思の姿勢で学ぶ学校
○自主自立の精神を重視する自由な校風の下、生徒が何ごとにも自己管理しながら主体的に取り組むとともに、中高・学年の枠を超えて切磋琢磨する学校
○至誠一貫・堅忍力行の校是の下、豊かな人間性や最後までやり抜く力を育むとともに、高い目標に挑む生徒をしっかりと支援する学校

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	社会の変化に対応するだけでなく社会に変革をもたらす、グローバルな視点をもって茨城から世界に羽ばたく、高い志をもって地域医療をはじめ地域課題の解決を先導する、といった形で社会に貢献できる者を育成する
教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	難関大学や医学部医学科、海外大学への進学希望にも十分応える質の高い授業と学習支援・進路支援を展開するとともに、生徒が主体的に取り組む特別活動等を重視する
入学者の受入れに関する方針 （アドミッション・ポリシー）	○真理を愛する学問第一の校風を理解し、好奇心旺盛で、自ら定めた課題を深く探究しようという切問近思の姿勢のある生徒 ○自主自立の精神を重視する自由な校風を理解し、何ごとにも主体的に取り組み、多様な者と協働しようという意欲のある生徒 ○至誠一貫・堅忍力行の校是を理解し、人格を磨き、高い目標に向けて最後までやり抜こうとする気概のある生徒

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題																																				
大学進学	1 本校では、「進路指導」ではなく「進路支援」、すなわち進路は、他者から指導されて決めるのではなく、生徒が自分自身で決めるべきものであり、職員は生徒の自己決定を支援していく、との姿勢をとっている。 2 令和7年度入試では、卒業学年の学級数が6に減る中、国公立大現役合格者は100名を超え、国公立大医学部・医学科への現役合格者は過去最多（14名）、難関私立大合格者も令和以降2番目の数となった。 3 個別大学で見れば、東京大への現役合格者が3名と、平成31年度以来の数にとどまったものの、東京科学大（旧東工大・東京医科歯科大学）、一橋大、大阪大への現役合格者は令和以降最多となり、東京藝大への現役合格者も2年連続で出た。さらに、早稲田大・慶應義塾大に44名（うち医学部1名）が現役合格した。これらは、生徒の多様な進路希望に丁寧に応えた結果と考えている。	1 「学問第一」の方針の下、授業改善を進め、大学進学以降も見据えた本物の学力を生徒に身につけさせるとともに、大学入学共通テスト、個別入試に的確に対応すること。 2 生徒の多様な希望進路を叶えるため、学部・大学選択等に資する情報提供や文理・融合講座、GRITセミナー、進路講演会等の行事の充実、医学コース、難関大研究会等の強化を図ること。 3 生徒が学校行事や部・委員会活動と学習を両立し、充実した高校生活を送ることができるよう、3年間を見通して計画的に進路支援を行うとともに、知道図南会（第4学年）の取組等により、第一志望を貫く既卒生を継続的に支援していくこと。																																				
	【過去5年間の大学入試結果概要】 R7.4.1現在																																					
	<table><tr><th></th><th>R 3</th><th>R 4</th><th>R 5</th><th>R 6</th><th>R 7</th></tr><tr><td>国公立大学・準大学合格者数</td><td>185 (249)</td><td>137 (191)</td><td>157 (224)</td><td>140 (190)</td><td>103 (154)</td></tr><tr><td>国公立・準大学医学部(医)合格者数</td><td>11 (23)</td><td>5 (9)</td><td>12 (23)</td><td>14 (20)</td><td>14 (19)</td></tr><tr><td>私立大学医学部(医)合格者数</td><td>6 (16)</td><td>4 (10)</td><td>5 (24)</td><td>3 (17)</td><td>2 (10)</td></tr><tr><td>難関私立大学合格者数</td><td>32 (51)</td><td>88 (105)</td><td>53 (102)</td><td>36 (57)</td><td>57 (81)</td></tr><tr><td>卒業生数</td><td>317</td><td>318</td><td>315</td><td>281</td><td>236</td></tr></table>			R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	国公立大学・準大学合格者数	185 (249)	137 (191)	157 (224)	140 (190)	103 (154)	国公立・準大学医学部(医)合格者数	11 (23)	5 (9)	12 (23)	14 (20)	14 (19)	私立大学医学部(医)合格者数	6 (16)	4 (10)	5 (24)	3 (17)	2 (10)	難関私立大学合格者数	32 (51)	88 (105)	53 (102)	36 (57)	57 (81)	卒業生数	317	318	315	281	236
		R 3	R 4	R 5	R 6	R 7																																
国公立大学・準大学合格者数	185 (249)	137 (191)	157 (224)	140 (190)	103 (154)																																	
国公立・準大学医学部(医)合格者数	11 (23)	5 (9)	12 (23)	14 (20)	14 (19)																																	
私立大学医学部(医)合格者数	6 (16)	4 (10)	5 (24)	3 (17)	2 (10)																																	
難関私立大学合格者数	32 (51)	88 (105)	53 (102)	36 (57)	57 (81)																																	
卒業生数	317	318	315	281	236																																	
※（ ）内は過年度卒を含めた数字																																						

特別活動等	1 学苑祭・歩く会・クラスマッチ等の学校行事については、生徒が主体となる実行委員会を組織し、生徒の自主的な運営のもと、活発に行われており、満足度も高い。 2 部活動については、生徒数が減少する中、体育部16団体、文化部16団体、同好会 3 団体が引き続き活動しており、加入率も 9 割を超えている。また、体育部では山岳部（男女）、陸上部、文化部では放送部が全国大会への出場を果たした。生徒による主体的な運営とともに、文武両道を目指し、タイムマネジメントを重視している。 3 ホームルーム活動については、生徒にとっては自己理解、教員にとっては生徒理解を深めるためのものとなるよう、工夫しながら実施している。 4 新たに導入したラーケーションについて、113名の生徒が231日分取得し、視察、調査、鑑賞など多様な校外活動を行い、学びを深めた。	1 行事については、生徒会及び各種委員会が主体となって運営しているが、生徒の自主性を尊重しつつ、より効率的・効果的な運営が図られるよう、適切に支援していくこと。 2 部活動については、生徒数の減による部員減や部活動改革、働き方改革に的確に対応し、活性化していくこと。 3 バス代など物価が高騰する中、遠征費等の支援を持続的にやっていくこと。																																																																	
働き方改革	1 月別の時間外在校時間 <table><tr><td></td><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td></tr><tr><td>平均の時間外在校勤務時間</td><td>26:51</td><td>28:22</td><td>32:53</td><td>26:35</td><td>10:19</td><td>26:26</td><td>26:06</td><td>24:10</td><td>20:50</td><td>20:19</td><td>18:58</td><td>20:12</td></tr><tr><td>30時間以内の教職員数 (%)</td><td>38 57</td><td>36 54</td><td>32 48</td><td>40 60</td><td>62 93</td><td>41 61</td><td>40 60</td><td>43 64</td><td>50 75</td><td>49 73</td><td>50 75</td><td>50 75</td></tr><tr><td>45時間以上の教職員数 (%)</td><td>9 13</td><td>14 21</td><td>19 28</td><td>11 16</td><td>1 1</td><td>9 13</td><td>11 16</td><td>9 13</td><td>9 13</td><td>6 9</td><td>5 7</td><td>4 6</td></tr><tr><td>80時間以上の教職員数 (%)</td><td>0 0</td><td>0 0</td><td>1 1</td><td>1 1</td><td>0 0</td><td>0 0</td><td>0 0</td><td>0 0</td><td>0 0</td><td>0 0</td><td>0 0</td><td>0 0</td></tr></table> 2 月平均時間外在校時間 23時間30分 月平均45時間超過者割合 13%		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均の時間外在校勤務時間	26:51	28:22	32:53	26:35	10:19	26:26	26:06	24:10	20:50	20:19	18:58	20:12	30時間以内の教職員数 (%)	38 57	36 54	32 48	40 60	62 93	41 61	40 60	43 64	50 75	49 73	50 75	50 75	45時間以上の教職員数 (%)	9 13	14 21	19 28	11 16	1 1	9 13	11 16	9 13	9 13	6 9	5 7	4 6	80時間以上の教職員数 (%)	0 0	0 0	1 1	1 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 月平均時間外在校時間は前年度に比べて減少（3時間24分減）したが、引き続き業務内容の見直しやDX化、会議の効率化、スクールサポートスタッフの活用等を図り、時間外在校時間のさらなる減少につなげること。 2 土曜課外の見直しなど、週休日の負担軽減を図るとともに、時差出勤の積極的な活用を促すこと。
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月																																																							
平均の時間外在校勤務時間	26:51	28:22	32:53	26:35	10:19	26:26	26:06	24:10	20:50	20:19	18:58	20:12																																																							
30時間以内の教職員数 (%)	38 57	36 54	32 48	40 60	62 93	41 61	40 60	43 64	50 75	49 73	50 75	50 75																																																							
45時間以上の教職員数 (%)	9 13	14 21	19 28	11 16	1 1	9 13	11 16	9 13	9 13	6 9	5 7	4 6																																																							
80時間以上の教職員数 (%)	0 0	0 0	1 1	1 1	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0																																																							

5 中期的目標

- 中高連携の下で教育課程や学習・進路支援の改善・充実を進め、中高一貫教育校としても我が国を代表するリーディングスクールとして認知されること。
- 同窓会（知道会）等と連携し、経済面等で困難な状況にある者への支援や情報提供を充実させ、教育の機会均等を徹底すること。
- 校務の合理化・効率化、働きやすい職場環境を絶えず追究し、学校運営の持続可能性を最大限高めること。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
教育課程・学習支援の改善・充実	①新課程での大学入試への対応を進めるとともに、中高連携・教科横断で授業改善を図り、生徒の授業満足度90%以上を目指す。 ②DXハイスクールへの採択を踏まえ、教育・学習活動等におけるICTの有効活用を進める。 ③科学オリンピックをはじめ、他校生等と切磋琢磨する「他流試合」への参加を奨励し、活躍を支援する。
進路支援の改善・充実	④難関大学や医学部医学科をはじめ、生徒及び既卒生の第一志望実現を支援する。
中高・学年の枠を超えた活動の推進	⑤＋4学年活動など、附属中との中高連携での活動や特別活動の改善・充実を図るとともに、部活動改革を推進する。
健康・安全の確保と法令遵守の徹底	⑥最後までやり抜く力の育成や教育相談の充実を図るなど、生徒の心身の健康・安全を確保する。 ⑦業務改善を進め、職員の心身の健康・安全を確保するとともに、法令遵守を徹底し、違反件数ゼロを目指す。